

# 抑制の深さの検査 (Bagolini 赤フィルタ棒: Bagolini red filter ladder: 検査)

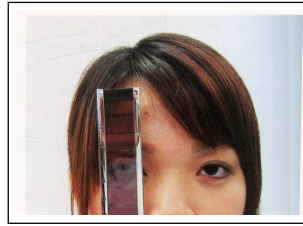
視能矯正マニュアル P158・視能学 P312 より

**目的** 抑制暗点の深さの定量

**準備物** 固視灯・Bagolini 赤フィルタ棒(Bagolini red filter ladder)

被検者に明室で 5~6m に位置した  
固視灯を見るように指示する

**固視眼に赤フィルタ棒を装用した場合**

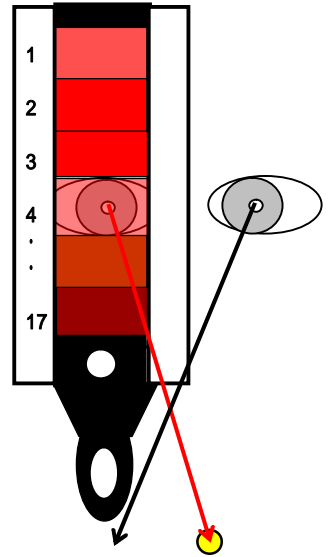


視能学 P312 図 28

固視眼が交代しないように注意!

固視眼前に赤フィルタ棒を装用させる

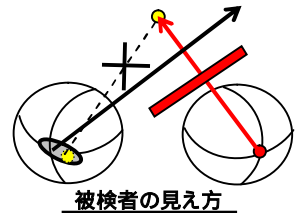
例) 左眼内斜視  
抑制の深さ 5



例)  
**赤色光のみ見える!**

健眼の光だね。

1 から順に白色光が赤色光の隣に知覚されるまで赤フィルタの濃さを増やしてゆく



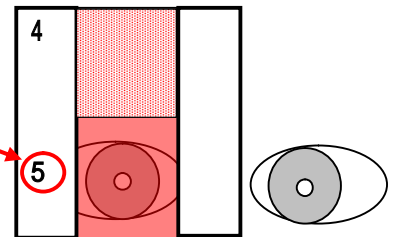
被検者の見え方  
fR

\* 右眼に赤フィルタ棒を装用した場合

例)  
**17 にも白色光が見えない!**

例)  
**5 にて白色光が見えた!**

正常対応であるならば、内斜視の場合、同側性に外斜視の場合、交叉性に出現するはず。



暗室にて同様に  
行う

暗室の方が両眼分離効果が強く、日常視より離れるので抑制がとれやすくなると考えられる。

**検査不可**

**白色光が見えた時の赤フィルタ番号が抑制の深さ(単位は )**

記載例)  
赤フィルター棒 右眼に装用  
Leye(sc): 抑制の深さ 5

**補足**  
**抑制除去訓練**  
白色光を自覚した時の赤フィルター番号(又は同じ程度の濃さの赤フィルター)を装用して光源を見てもらい徐々に赤フィルターの濃さを減らしても複視が自覚できるようにさせる

fixation switch diplopia(固視眼固視にて複視一、斜視眼固視にて複視+)となることがあるので、左右眼それぞれを固視として検査した方が良いとのこと。視能矯正マニュアル P155 よりその時、斜視眼の固視の固定に注意!

斜視眼を固視にして同様に  
行う